

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

|               |   |       |            |
|---------------|---|-------|------------|
| 事業所番号         | 4070001377                              |       |            |
| 法人名           | 社会福祉法人 松風会                              |       |            |
| 事業所名          | 認知症高齢者グループホーム「みやこの愛」                    |       |            |
| 所在地<br>(電話番号) | 福岡県京都郡みやこ町豊津1205-1<br>(電話) 0930-33-3851 |       |            |
| 評価機関名         | 株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部                  |       |            |
| 所在地           | 福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階               |       |            |
| 訪問調査日         | 平成22年3月28日                              | 評価確定日 | 平成22年5月13日 |

【情報提供票より】(平成22年3月7日事業所記入)

(1) 組織概要

|       |            |                                |      |
|-------|------------|--------------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成17年11月1日 |                                |      |
| ユニット数 | 2 ユニット     | 利用定員数計                         | 18 人 |
| 職員数   | 25 人       | 常勤 12 人, 非常勤 13 人, 常勤換算 18.5 人 |      |

(2) 建物概要

|      |        |       |
|------|--------|-------|
| 建物構造 | 木造平屋造り |       |
|      | 1 階建ての | 1 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |                  |                |                |
|---------------------|------------------|----------------|----------------|
| 家賃(平均月額)            | 30,000 円         | その他の経費(月額)     | 光熱費(月額)7,000 円 |
| 敷金                  | 有( 円)            | (無)            |                |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有( 円)            | 有りの場合<br>償却の有無 | 有 / 無          |
| 食材料費                | 朝食               | 円              | 昼食 円           |
|                     | 夕食               | 円              | おやつ 円          |
|                     | または1日当たり 1,200 円 |                |                |

(4) 利用者の概要 ( 3 月 7 日現在)

|       |           |         |         |
|-------|-----------|---------|---------|
| 利用者人数 | 16 名      | 男性 4 名  | 女性 12 名 |
| 要介護1  | 4 名       | 要介護2    | 3 名     |
| 要介護3  | 3 名       | 要介護4    | 1 名     |
| 要介護5  | 4 名       | 要支援2    | 1 名     |
| 年齢    | 平均 85.6 歳 | 最低 74 歳 | 最高 97 歳 |

(5) 協力医療機関

|         |                          |
|---------|--------------------------|
| 協力医療機関名 | のぐちクリニック、大原病院、小波瀬病院、田淵歯科 |
|---------|--------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

『みやこの愛』は自然環境に恵まれた地にあり、太陽光発電(国との共同研究事業)、オール電化、光触媒による防汚抗菌・脱臭作用のコーティングを室内に施す等、時代の要請に合致した造りとなっている。庭には入居者が耕した畑や、日光浴を楽しむことが出来るウッドデッキがせり出している。ハード面の充実とともに、ソフト面でも入居者一人ひとりの思いや意向の実現に努めるべく、日々、様々な支援を行なっている。月に1回の外食や仕出弁当の取り寄せ、個々の希望にも対応するドライブや受診支援、運営推進会議は家族会を兼ね、積極的に外部にも門戸を開き広く意見の収集に努めている。また地域との関係作りにも取り組み、行事参加だけでなく、地域清掃にも入居者とともに積極的に参加したり、同業者の集まりには定期的に出席する等、地域のネットワークの充実に努めている。職員へのヒアリングの際には、「奥が深い」と自らの仕事を謙虚に振り返り、主体的に自分の言葉で語る職員の姿から、入居者一人ひとりの支援に対する真摯な姿勢、日々の仕事に向けた誠実な姿勢を感じることが出来た。ここに本事業所の更なる可能性を垣間見る思いがする。各居室入口に施された飾り棚が、入居者のさりげない個の主張をしているように、当事業所も地域の中で、さりげなくも確かな主張の展開が期待される、今後が楽しみな事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

|      |   |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)  |
|      | 前回の改善課題としては、「本人の意向確認が困難なケースでの介護計画の目的の明確化」が挙げられている。改善に向けた取り組みとしては、本人の日頃の表情、言動等から潜在するニーズを汲み取るよう、平素の支援から努めている点や、介護計画書に、本人と家族の思いや意向を別々に記載した点が確認出来た。           |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)   |
|      | ユニット会議や、運営推進会議でも報告がなされ、改善に向けた取り組みを行なっている。職員へのヒアリングでは、積極的に質問等がなされ、評価を主体的に捉え、サービスの質の向上につなげようとする姿勢を感じることが出来た。  |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)  |
|      | 入居者や家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、行政担当者が参加し、2ヶ月に1回実施している。運営状況や事故報告等が行なわれ、忌憚のない意見交換がなされている様子や、家族の質問にも、真摯に回答している様子が議事録より確認出来た。また出された意見については、後日、会議を開催し、業務に反映させている。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)  |
|      | 運営推進会議と家族会を兼ねて開催している。家族会は、代表制ではなく、希望すれば参加出来るしくみになっている。実際、議事録かた忌憚のない意見交換の様子が確認出来る。また意見箱も設置されており、広く意見の収集に努めている。   |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  |
|      | 祭りや、そうめん流し、清掃活動等、地域行事には、入居者、職員が共に参加し、地域住民との交流を図っている。また散歩や回覧板を届ける際に、挨拶や会話を交わす等、日常的な関係作りにも努めている。  |

2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ( 印 ) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|-------|-----------------------------------|
| <b>. 理念に基づく運営</b>     |    |   |   |       |                                   |
| 1. 理念と共有              |    |   |   |       |                                   |
| 1                     | 1  | 地域密着型サービスとしての理念   | 「人生ゆっくり・自分らしく」という理念に加え、「質の大切さを創造する」、「家族の協力を得ながらの安心と安全な生活空間の提供」、「ヒューマンライフのサポート」を趣旨とする事業所独自の基本方針を作り上げている。   |       |                                   |
|                       |    | 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  |   |       |                                   |
| 2                     | 2  | 理念の共有と日々の取り組み   | 理念と基本方針を申し送り時に唱和することで意識の共有に努めている。また共有スペースや事務所、職員トイレ等、目に付きやすい場所に掲示する等、意識付けを図っている。  |       |                                   |
|                       |    | 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                   |   |       |                                   |
| 2. 地域との支えあい           |    |   |   |       |                                   |
| 3                     | 5  | 地域とのつきあい  | 祭りや、そうめん流し、清掃活動等、地域行事には、入居者、職員が共に参加し、地域住民との交流を図っている。また散歩や回覧板を届ける際に、挨拶や会話を交わす等、日常的な関係作りにも努めている。  |       |                                   |
|                       |    | 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている        |   |       |                                   |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |   |   |       |                                   |
| 4                     | 7  | 評価の意義の理解と活用   | ユニット会議や、運営推進会議でも報告がなされ、改善に向けた取り組みを行なっている。昨年の指摘事項についても、改善に向けた取り組みが確認出来た。また職員へのヒアリングでは、積極的に質問等がなされ、評価を主体的に捉え、サービスの質の向上につなげようとする姿勢を感じることが出来た。                |       |                                   |
|                       |    | 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる             |   |       |                                   |
| 5                     | 8  | 運営推進会議を活かした取り組み   | 入居者や家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、行政担当者が参加し、2ヶ月に1回実施している。運営状況や事故報告等が行なわれ、忌憚のない意見交換がなされている様子や、家族の質問にも、真摯に回答している様子が議事録より確認出来た。また出された意見については、後日、会議を開催し、業務に反映させている。 |       |                                   |
|                       |    | 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている |   |       |                                   |

## 認知症高齢者グループホーム「みやこの愛」

| 外部              | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|-----------------|----|--|---|-----|---|
| 6               | 9  | 市町村との連携  | 市町村主催の会議や研修会に参加し、連携を図るとともに、日常的に質問や相談を気軽に行える関係が築かれている。市町村との相談や手続きの際には、事業所便りを配布している。  |     |   |
|                 |    | 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる   |   |     |   |
| 7               | 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用   | 現在、成年後見制度申請中の方がおり、資料も準備し、パンフレットも玄関に置く等しているが、職員間での周知には至っていない。  |     | 実際に制度申請中の入居者もいることから、制度について職員間で周知することは必須と思われる。事業所としても、「講師を招き専門的に勉強したい」との意向もあることから、研修会等を開催し、制度の理解と周知を期待したい。 |
|                 |    | 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。   |   |     |   |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |  |   |     |   |
| 8               | 14 | 家族等への報告  | 毎月、『愛だより』を発行し、一人ひとりの暮らしぶりを手書き、写真入りで報告している。家族にも好評の様子。金銭管理についても、レシート添付の出納帳を作成しており、家族も、その都度確認している。また急な状態変化等、必要に応じて電話連絡や訪問等を行い、個々に合わせた報告を行なっている。                            |     |   |
|                 |    | 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている  |   |     |   |
| 9               | 15 | 運営に関する家族等意見の反映   | 運営推進会議と家族会を兼ねて開催している。家族会は、代表制ではなく、希望すれば参加出来るしくみになっている。実際、議事録から忌憚のない意見交換の様子が確認出来る。また意見箱も設置されており、広く意見の収集に努めている。苦情等がある場合には、ミーティングや申し送り時に伝達し、ユニット会議に取り上げ、運営に反映させるよう取り組んでいる。 |     |   |
|                 |    | 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   |   |     |   |
| 10              | 18 | 職員の異動等による影響への配慮  | 職員は、馴染みの関係の大切さを理解し、支援に努めているが、止むを得ない異動は実際には生じている様子。入居者には、その都度説明をし、理解を求めている。家族については、家族会を兼ねた運営推進会議で報告をしている。  |     |   |
|                 |    | 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている   |   |     |   |
| 5. 人材の育成と支援     |    |  |   |     |   |
| 11              | 19 | 人権の尊重  | 職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。事業所で働く職員についても、外部研修の案内はなされており、希望すれば参加出来る体制がとられている。また年に数回、食事会を行ない、職員のストレス軽減にも努めている。職員のヒアリングから、上司に相談し易い雰囲気であることも確認出来た。            |     |   |
|                 |    | 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。 |   |     |   |

## 認知症高齢者グループホーム「みやこの愛」

| 外部                          | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|-----------------------------|----|--|---|-----|---|
| 12                          | 20 | 人権教育・啓発活動  | 事業所の基本方針の中に「高齢者の尊厳とヒューマンライフをサポートします」という文言があり、事業所として、人権の尊重を重要視していることがうかがえる。申し送り時、全員で唱和するとともに、人権の尊重を常に念頭に置いた支援を心掛けるよう啓発している。                          |     |   |
|                             |    | 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。                              |   |     |   |
| 13                          | 21 | 職員を育てる取り組み   | 事業所内外の研修に定期的に参加している。但し、実施記録が不十分である。また業務マニュアルが作成され、その内容は業務手順、求められこと等が明確で、分かり易い。職員教育にも役立つと思われる。さらに業務を10項目に分けての担当委員制を設置し、職員各自に責任と自主性の発揮を促している。         |     | 研修計画や、外部研修の参加は確認出来たが、実施記録が不十分であったり、内部への伝達研修の実施が見られなかった。効果的な研修の実施や、研修内容の充実、また職員間の周知の観点から、研修結果の記録化や外部研修後の伝達研修の実施を期待したい。 |
|                             |    | 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている             |   |     |   |
| 14                          | 22 | 同業者との交流を通じた向上  | 地域のグループホーム連絡協議会(2ヶ月に1回開催)を始め、豊津連絡協議会や地域ケア会議等、様々な同業者の集まりには積極的に参加し、意見交換や交流、相互訪問等、地域のネットワーク作りに取り組みながら、サービスの質の向上に努めている。                                 |     |   |
|                             |    | 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている      |   |     |   |
| <b>2. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |    |  |   |     |   |
| 2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応   |    |  |   |     |   |
| 15                          | 28 | 馴染みながらのサービス利用  | 一人ひとりの意向・状態に配慮して、見学の実施や、暮らしの場、入院先に赴き、家族や関係者の話を聞きながら、説明や情報収集を行い、本人が徐々に馴染める雰囲気作りを行っている。他の入居者とも馴染むまでは、職員が可能な限り寄り添えるよう努めている。また「お試し利用」についても、希望があれば応じている。 |     |   |
|                             |    | 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している |   |     |   |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援   |    |  |   |     |   |
| 16                          | 29 | 本人と共に過ごし支えあう関係   | 入居者に出来る範囲で、掃除や片付け、畑仕事等、日常的に役割を担ってもらい、職員とともに作業する中で、人間関係を深めながら、共に過ごし支えあう関係作りに努めている。   |     |   |
|                             |    | 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                       |   |     |   |

## 認知症高齢者グループホーム「みやこの愛」

| 外部  | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|---|----|---|---|-----|--|
| <b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>               |    |   |   |     |  |
| <b>1. 一人ひとりの把握</b>                            |    |   |   |     |  |
| 17  | 35 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>  | <p>アセスメントツールに、センター方式を一部採用し、思いや希望の把握を行なっている。入居者によっては記載内容に差があり、今後検討の余地があるように思われる。</p>             |     | <p>自己評価では、「入居時に希望は聞くが、共同生活上厳しい面がある」との認識を示されているが、地域密着型サービスの趣旨である「その人らしく暮らし続けることを支える」という観点を省みながら、センター方式の更なる活用や、職員による日常の気付きを通して、入居者一人ひとりの思いや意向の更なる把握、及びそれらを基にした本人本位の検討を期待したい。</p> |
| <b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>         |    |   |   |     |  |
| 18  | 38 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>     | <p>センター方式で把握したニーズを基に担当者会議を開催し、関係者と話し合いながら、本人本位の介護計画作成に努めている。</p>                                |     |  |
| 19  | 39 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>定期的に見直しを行なうとともに、入退院時や、急な状態変化等、必要に応じて、その都度、主治医や関係者の意見を取り入れながら、現状に即した見直しを行なっている。</p>           |     |  |
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b> |    |   |   |     |  |
| 20  | 41 | <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>                                   | <p>一人ひとりの意向や状態に応じて、かかりつけ医の受診や買物、散髪、ドライブ等、可能な限り柔軟に個別対応している。年末年始やお盆の自宅への帰省や、家族の宿泊にも柔軟に対応している。</p> |     |  |
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>            |    |   |   |     |  |
| 21  | 45 | <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>                      | <p>本人や家族の希望を尊重し、かかりつけ医の受診を支援している。受診時には、職員が同行し、連携を図っている。また訪問看護を取り入れ、適切な医療が受けられるよう努めている。</p>      |     |  |

## 認知症高齢者グループホーム「みやこの愛」

| 外部                             | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| 22                             | 49 | 重度化や終末期に向けた方針の共有   | 入居前に、事業所の方針(本人、または本人の代理人の意向を尊重し協議、同意の上決定する)を説明し、本人・家族の希望をうかがい同意書を交わしている。また必要に応じて、本人や家族、主治医等関係者と相談しながら、方針の共有に努めている。          |     |                                   |
|                                |    | 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している |   |     |                                   |
| <b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |    |  |   |     |                                   |
| 1. その人らしい暮らしの支援                |    |  |   |     |                                   |
| (1) 一人ひとりの尊重                   |    |  |   |     |                                   |
| 23                             | 52 | プライバシーの確保の徹底   | 入居者との信頼関係を大切にし、一人ひとりに応じた言葉かけや対応を行なっている。また個人情報保護法に基づき、同意書を交わすとともに、記録物についても、個人別に適切に取り扱い、保管している。                               |     |                                   |
|                                |    | 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                      |   |     |                                   |
| 24                             | 54 | 日々のその人らしい暮らし   | 自己評価によると、現在、「事業所の決まりの枠内で、一人ひとりの希望を聞く」ということに止まっているとのこと。しかし、実際には、一人ひとりの生活暦や特技を活かした役割が日常的にあり、入居者は、職員とともにマイペースで取り組んでいる様子が見える。   |     |                                   |
|                                |    | 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している        |   |     |                                   |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援  |    |  |   |     |                                   |
| 25                             | 56 | 食事を楽しむことのできる支援   | 入居者の好みを反映した献立作りを行うとともに、外食や仕出弁当を取ったりと食事が楽しみとなる配慮を行なっている。食材にはこだわり、米は有機肥料、天然水、減農薬栽培のものを使用している。また日常的に洗い物や、おぼん拭きを役割として担ってもらっている。 |     |                                   |
|                                |    | 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている              |   |     |                                   |
| 26                             | 59 | 入浴を楽しむことができる支援   | 週4日の入浴体制の中で、基本的には週に2回の入浴である。シャワー浴については、いつでも対応が可能である。「週3回にしたい」との意向があり、検討している段階である。   |     |                                   |
|                                |    | 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している             |   |     |                                   |

## 認知症高齢者グループホーム「みやこの愛」

| 外部                            | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                   |
|-------------------------------|----|---|---|-----|---|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |    |   |   |     |   |
| 27                            | 61 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  | 畑仕事や洗濯物たたみ、廊下の拭き掃除、茶碗洗い等、一人ひとりの生活歴や特技を活かした役割を、日常的な細々としたところから担ってもらっている。また月に1回外食や弁当をとったり、季節に応じたのドライブを実施する等、楽しみ・気晴らしの創出に努めている。 |     |   |
|                               |    | 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている        |   |     |   |
| 28                            | 63 | 日常的な外出支援  | 日常的に庭や近くの駅まで散歩に出掛けたり、近所へ回覧板を届ける等の(外出)支援をしている。また曜日を決めて、個別の外出希望に応じている。毎月外食会を実施している。   |     |   |
|                               |    | 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                  |   |     |   |
| (4) 安心と安全を支える支援               |    |   |   |     |   |
| 29                            | 68 | 鍵をかけないケアの実践   | 職員は、日中施錠することの弊害を理解し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。プライバシーに配慮しながら、見守りを徹底し、安全面の配慮に努めている。  |     |   |
|                               |    | 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる            |   |     |   |
| 30                            | 73 | 災害対策  | 年に2回(内1回は消防署立会)、避難訓練を実施している。その際、消防機器の点検も実施している。また緊急時の連絡体制についてもフローチャートで明確にしており、万全に努めている。現在、スプリンクラー設置を準備中である。                 |     | 今後、夜間想定訓練実施の意向があり、その実現を期待したい。また地域住民の協力依頼等には至っていないことから、その取り組みを期待したい。 |
|                               |    | 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている |   |     |   |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援    |    |   |   |     |   |
| 31                            | 79 | 栄養摂取や水分確保の支援  | 給食委員が、入居者の希望を踏まえ献立を作成している。地域包括の栄養士に協力を仰ぎ、実際の献立を見せ、助言を得ている。刻みでの提供等、一人ひとりの状態に応じた工夫を行っている。摂取量についても、水分量とともに記録し、充分量の確保に努めている。    |     |   |
|                               |    | 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている            |   |     |   |

## 認知症高齢者グループホーム「みやこの愛」

| 外部                      | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|---|--|-----|----------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり |    |   |  |     |                                  |
| (1) 居心地のよい環境づくり         |    |   |  |     |                                  |
| 32                      | 83 | 居心地のよい共用空間づくり   | 室内は全体的に明るい。入居者がくつろげるようにと、掘り炬燵のある和室スペースや、随所にソファが置かれている。リビングに面した台所からは、調理風景を五感で感じ取ることが出来る。程よい雑然さと、各所に施された季節の飾りが暮らしに潤いを与えている。    |     |                                  |
|                         |    | 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている |  |     |                                  |
| 33                      | 85 | 居心地よく過ごせる居室の配慮  | 各居室入口には、専用の飾り棚があり、各自好みの飾り付けを行っている。各室には、好みの物や使い慣れた馴染みのものが持ち込まれ、居心地のよい暮らしの支援に努めていることがうかがえるが、一方で、その様が充実した居室と、シンプルなままの居室が見受けられる。 |     |                                  |
|                         |    | 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                    |  |     |                                  |